



2021年2月期 第3四半期決算の詳細は、  
セブン&アイHLDGS.WEBサイト  
「IR資料室」へ

# 新型コロナウイルス感染症の影響により 営業利益は減益も通期予想は上方修正

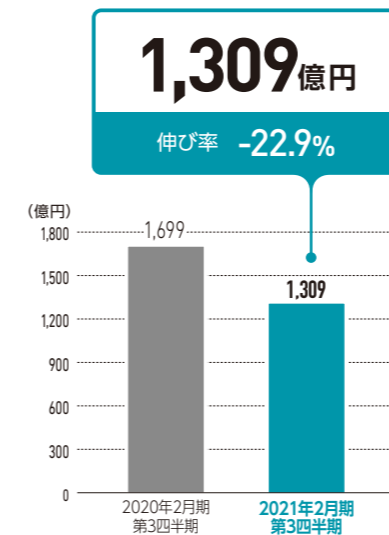
2021年2月期  
第3四半期  
決算概況

## ※ 主なセグメント別営業利益

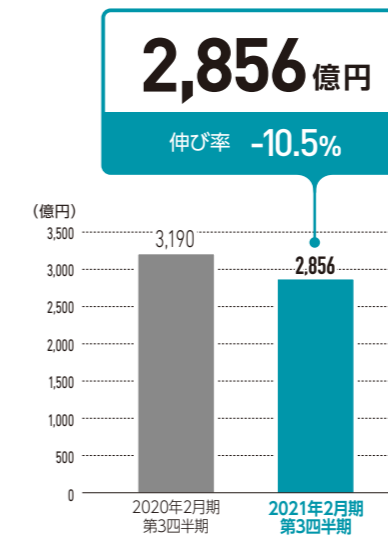
国内コンビニエンスストア事業	1,823億円 伸び率 -8.9%	セブン・イレブン・ジャパンは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛および在宅勤務の増加により、客数などに大きな影響を受けました。そこで、お客様の行動変化に対応した商品開発および品揃え強化に加え、加盟店に対する感染防止対策物資の支給や経済的支援の実施など、加盟店経営のサポートにも注力いたしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大による厳しい状況からは回復基調にあったものの、既存店売上は前年を下回り、営業利益は1,820億44百万円（前年同期比8.3%減）となりました。
海外コンビニエンスストア事業	797億円 伸び率 +4.3%	北米の7-Eleven, Inc.は、ファスト・フードおよびプライベートブランド商品「セブンセレクト」の開発・販売に引き続き注力いたしました。米国におきましては、3月に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国家非常事態宣言が出されましたが、政府からの要請もあり、生活必需品を供給すべく営業を継続してまいりました。当第3四半期連結累計期間におけるドルベースの米国内既存店商品売上は前年を上回りました。また、営業利益は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い加盟店に対する経済的支援を実施しましたが、ガソリンの収益性改善などにより955億67百万円（前年同期比4.8%増）となりました。
スーパーストア事業	199億円 伸び率 +151.6%	イトーヨーカ堂は、引き続き事業および店舗構造改革を推進しています。巣ごもり需要に対応した食品の売上は伸長したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大抑止に向けた営業時間の短縮およびアリオにおけるテナント部分の休業などが影響し、テナントを含む既存店売上は前年を下回りました。しかしながら、営業利益は構造改革実施店舗の収益性改善などにより、27億92百万円増の18億95百万円となりました。 ヨークベニマルは、外出自粛に伴う巣ごもり需要に対応した品揃えの拡充などにより既存店売上は前年を上回り、営業利益は138億89百万円（前年同期比60.9%増）となりました。
百貨店事業	-65億円 前期差額 -45億円	そごう・西武は、イトーヨーカ堂同様、引き続き事業および店舗構造改革を推進しており、首都圏に経営資源を集中すべく8月31日に4店舗を閉店しました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、客数などに大きな影響が生じた結果、既存店売上は前年を下回り、営業損失は前第3四半期連結累計期間と比べ44億55百万円増の70億73百万円となりました。
金融関連事業	374億円 伸び率 -10.1%	セブン銀行は、新型コロナウイルス感染症の拡大抑止に伴う外出自粛の影響および一部提携金融機関による手数料体系変更の影響により、国内ATM事業における1日1台当たりの平均利用件数は89.3件（前年同期差1.9件減）となり、ATM総利用件数は前年を下回りました。また、ノンバンク事業は、電子マネーおよびクレジットカード事業の取扱高が前年を下回ったことなどにより減益となりました。
専門店事業	-100億円 前期差額 -141億円	専門店事業会社においては、お客様ニーズに対応した商品政策を引き続き実行しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大抑止に向けた営業時間の短縮および休業対応などにより、レストランや衣料品、雑貨を取り扱うリアル店舗の客数、売上などに大きな影響があったことなどから営業損失となりました。

## 連結業績

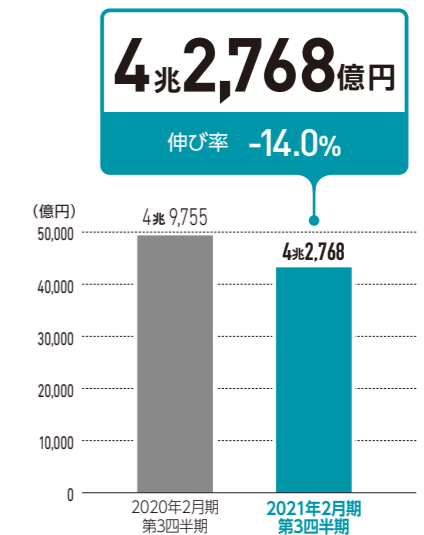
親会社株主に帰属する  
四半期純利益



営業利益



営業収益



**当期の概況**

当第3四半期連結累計期間における国内および海外経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況が続いています。国内の個人消費は持ち直しの動きが見られるものの、感染者数が再度増加傾向にあるなど、予断を許さない状況にあります。このような環境の中、当社グループは、お客様と従業員の安全確保を最優先に、基本方針として掲げる「信頼と誠実」「変化への対応と基本の徹底」を体現し、中長期的な企業価値向上と持続的な成長の実現に取り組んでおります。しかしながら、営業利益は11年ぶりの減益となり、経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益もそれぞれ減益となりました。

また通期業績予想は、足元では新型コロナウイルスの感染者数が再拡大し、再び緊急事態宣言が発出されるなど、依然として予断を許さない状況が続くと思われるものの、第3四半期までの実績をふまえ、各段階利益において上方修正しました。

## 2021年2月期連結業績予想 (2020年3月1日~2021年2月28日)

	金額	伸び率	修正額 (1月12日修正)
営業収益	5兆7,180億円	-13.9%	-410億円
営業利益	3,450億円	-18.7%	+50億円
経常利益	3,320億円	-20.5%	+60億円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,445億円	-33.8%	+60億円

グループ売上：11兆140億円\*  
(伸び率：-8.2%、修正額：-1,160億円)  
\*セブン・イレブン・ジャパン、セブン・イレブン・沖縄および7-Eleven, Inc. における加盟店売上を含む